

令和4年度岩手県農政審議会 農地部会 会議録

日時 令和5年2月14日(水)

場所 盛岡市勤労福祉会館 201 会議室

1 開会

2 議事 部会長選任

委員の互選により、部会長に大宮惇幸委員、副部会長に細川睦委員が選任された。

3 報告事項

新たな「いわて農業農村整備の展開方向」の策定について、茂田農村計画課企画調査課長が資料1により説明。

【質疑・意見等】

○ 菅原紋子委員

小推力発電の取組について、電力が上がってきていることが課題となっている。水田へのポンプの老朽化も進んでいるが、どのように進めていくことを考えているか。

○ 茂田農村計画課企画調整課長

現在電気料金が上がってきている。小水力発電の売買により、負担軽減を行うという取組だが、どこでもできるものではないと認識している。

電気代の高騰は世界的な傾向なため、今後の動向をよく注視する必要があるが、より省力的な取組をしていく。

○ 千田技監兼農村整備担当技監兼農村計画課総括課長

ポンプが老朽化してきており、取り換えの時期となっているが、それを改修する国庫事業もあり、定電圧で動くポンプへの改修を進め、なるべく電力を使わないものに改修することを進めている。

地域計画を活用して、地域住民とよく話し合いを進めながら、地域の営農とともに検討を進めていきたい。

○ 菅原紋子委員

大区画化を進めていただいているが、機械も大きくなってきているので、せめて1haにしたいと思っている農地もあるので、是非進めていただきたい。

○ 茂田農村計画課企画調整課長

ご意見として頂戴する。圃場整備ではなるべく大きくしようと進めている。中山間地については、あまり大区画にこだわらず、地域のニーズに合わせて、コストのかからない方法で整備したいと考えている。

○ 君ヶ洞千里委員

大区画の定義はあるのか。また、岩手県で大区画化した農地で米を生産している割合が分かれば教えていただきたい。

- 茂田農村計画課企画調整課長
定義については、50a 区画以上としている。
- 佐々木技術参事兼農村計画課総括課長
水田について、中山間地では6万9千ヘクタールのうち、30a 以上が3万4千ヘクタールとなっている。平場では2万4千ヘクタールのうち、30a 以上は1万5千ヘクタールとなっている。
- 千田技監兼農村整備担当技監兼農村計画課総括課長
中山間地域では、大区画化すると斜面が多くなり、草刈りが大変になる事例がある。傾斜を緩くし、そこに自動草刈機を入れるといった取組も進めている。
- 細川睦委員
海外の人に農地を買われるという事例を聞いたことがあるが、岩手県ではそのような事例があるのか。対策や条例のようなものはあるのか。
- 千田技監兼農村整備担当技監兼農村計画課総括課長
把握はしていないが、大規模開発等で絡んでくると思われる。具体的な情報は持ち合わせていないので、また別途回答する。

4 その他

5 閉会